

(件 名) 鹿児島港本港区スポーツ・コンベンションセンター事業に関する陳情書

(陳情の趣旨)

本港区エリア・及びその周辺のグランドデザインが明確に示されていないまま、先行してスポーツ・コンベンションセンターの建設が進められる事については断固反対です。なぜ本港区にこだわるのか？私達市民からすると、ごく一部の財界人・企業・団体からの圧力で強行されようとしているようにしか感じられません。

鹿児島観光というと指宿、霧島などの人気が高く、市内観光よりも温泉や離島への人気が勝っているのがSNSや各旅行情報サイトの口コミ等から分かります。桜島を除く市内には現在、強烈な拠点・シンボルとなる場所がなく、一番のシンボルである桜島内にも十分な観光商業施設がありません。本港区エリアは今からそれを創ることが可能な唯一の場所です。コンベンションセンターと体育館を見栄え良く融合させたところで鹿児島のシンボルにはなり得ません。会議や大会があれば足を運びますが、用事がなければ来ない場所です。常に何かを開催していなければ経済が動きません。老朽化に伴い赤字が膨らむのも目に見えています。逆に365日人が集まり賑わうのは、用事がなくても足を運びたくなるような魅力を発信できる場所です。エリア全体の街づくりの方向性、コンセプトが曖昧なまま、巨大な圧迫感あるハコモノを建ててしまえば、それ一つで鹿児島市街地の印象はガラリと変わり、後からのエリア設計も困難になります。観光都市の街づくりに最も大切な「場」の魅力を作り出す事ができなければ、経済を呼び込むことができません。経済を動かすのは人々の感情です。単独の建物ではなく街全体・空間をどう生かしどう作るか、外部の建築家も入れてしっかりブランディングしていけば、長いスパンで外貨を呼び込む強力な観光スポットとなり、天文館への動線をより活かすことにも繋がります。

私は東京都出身で、横浜の大学を卒業後、京都に7年ほど住みました。東京・横浜・京都はそれぞれの地の利を生かした街づくりが行われていて、伝統がありながらも閉鎖的ではなく開放的で、何より活気があります。現在、鹿児島市街地には、そのような活気がありませんし、観光を盛り上げようという人々の熱量もあまり感じられません。内輪で盛り上がるところで完結してしまい、観光都市であるにも関わらず、「県外・世界から見た鹿児島」という客観的な意識が低いのは非常に勿体ないことです。今はこれでも良いのかもしれませんが、人口減少が進む近未来に、どのように経済を底上げしていくのでしょうか？

また、設計費の9億円の予算を通すということは、建設を強行するのと同じことです。その前に、本当に本港区に体育館が必要か、ということから再検討して頂きたいです。現行施設の老朽化等により建設が急務であるなら、体育館は別の候補地、又は現行の土地での建て直しを含めた、鹿児島県民に必要な規模での再検討を陳情致します。鹿児島県の一番の地の利を生かしての街開発を考慮すれば、スポーツ大会を呼び込むことは第一優先ではないはずですし、県大会が開ければよいのであれば、この場所で500億円かける必要もありません。

本港区及び周辺エリアは一貫した一大観光商業エリアとしての街開発を強く希望致します。